



No. 160 2026.5
 (株) よかネット

NETWORK

地域の持続可能性を高める担い手育成	2
一次情報収集、合意形成のスキルアップ	4
見・聞・食	
地産地消に拘る清酒・焼酎づくりの蔵 ～大分県臼杵市 - 榎久家商店の取組～	5
天候リスクの高い地域における観光サービス	9
近況	
不思議な縁～岸ママとの再会	12
続共生社会	14
人生 100 年時代	16
FaW TOKYO (ファッションワールド東京) に行ってみた	18
表紙解説	18

●博多駅地区に通勤できる？できない？

2026年3月に北九州市が市内に移住した福岡都市圏への通勤に対し、3年間の新幹線通勤代を補助するというニュースが話題になりました。そこで、今回は博多駅まで午前8時半台に到着できる圏域(=物理的に博多駅まで通勤可能な圏域)を可視化してみました。(詳細な条件等は表紙解説に記載)

まず、福岡県内については、JR日田彦山線BRTの深倉駅だけが到着できないという結果でした。佐賀県内は伊万里駅以西を走る松浦鉄道の駅からの到達ができず、長崎県内でも同じく松浦鉄道の佐々～今福駅間に加え、島原鉄道の島原港駅も到達できませんでした。大分県・熊本県では、両県にまたがるJR豊肥本線の宮地～豊後竹田駅間のほか、大分県内はJR久大本線の日田～由布院間や日豊線の幸崎駅以南で到着できないようです。また、熊本県内ではJR肥薩線とくま川鉄道が災害のため運休しており、その沿線も到着不可となっています。鹿児島県内はJR指宿枕崎線の山川駅以降や日豊線の国分駅以降で到着不可です。宮崎県は県内全域が鉄道での到着は難しいほか、航空機についても最早便が9:20に福岡空港着のため、空路でも到着は難しいという結果でした。



地域の持続可能性を高める担い手育成

中川 貴美子

脱炭素はゴールではなく、地域づくりや経営のスタート。10期続けてきた地域の担い手を育む2つの取り組みについて紹介したい。

●脱炭素×SDGs オーガナイザー育成プログラム 10期目が修了

環境省の平成27・28年度「持続的な地域創生を推進する人材育成拠点形成モデル事業」の採択を契機に、全国3地区の1つとして、スタートした人材育成のプログラムにおいて、昨年度10期生が修了した。高校生向けの短期コースなども含め、延べ400名以上が受講し、100名以上をサステナビリティオーガナイザーとして認定してきた。

スタート当時は、固定買取価格制度（FIT:再生可能エネルギーの電気を国が決めた価格で買い取る制度）を受け、資本を持つ大手企業等を主体とした再生可能エネルギー導入が地域で始まる中、単なる再生可能エネルギー導入や儲けだけでなく、地域の主体的な担い手を育成することを主眼とした事業であった。

当時、滋賀、佐賀の大学を主体とした取組が採択されたが、我々が関わる兵庫県では、兵庫県、県下市町、大学、金融機関等でひょうご持続可能地域づくり機構（Hs0）を設立（畑中代表理事、中川事務局長）し、事業をスタートした。



脱炭素×SDGs オーガナイザー育成プログラム
視察の様子

国のモデル事業終了後も、兵庫県の担当者の方と「人材育成事業は継続してこそ成果がでるもの、10年は続けない」となり、さらに事務局として（一社）ひょうご持続可能地域づくり研究所（HsI）を立ち上げ、今年度11期目を迎えている。

【参考】

Hs0・HsIHP <https://www.hso-t.com/>

●多世代が混じりあい、包摂的に取り組む

社会情勢の変化に応じてタイトルなどはマイナーチェンジを繰り返しつつ取り組んできたが、当初から変わらないのは育成する人材像である。それは、持続可能な地域づくりおよび地域課題の解決を進める担い手として、自ら事業・取組を立案、推進を行う人材を育成するということである。そして、自身の取組だけでなく、地域をオーガナイズする担い手を育成しようということである。

どんな業種の方でも、どんな世代の方でも受け入れ、下は中学生から高校生・大学生、そして現役の事業者の方、上は70代と、地域の縮図のような立場も世代も超えて、学びあうスクールである。参加された方々からは、座学での学びだけでなく、この多世代で、これまで話したことがない属性の方々と話し合い、積み上げるプロセスを通じた、学びが大きかったという声を聴く。



脱炭素×SDGs オーガナイザー育成プログラム
講義の様子



脱炭素×SDGs オーガナイザー育成プログラム
グループワークの様子

●脱炭素ではなく、脱炭素“経営”スクール

脱炭素×SDGs オーガナイザーのプログラムをきっかけに、豊田市で全国発、サプライチェーン排出量削減に対応した自社の脱炭素経営を考える「脱炭素経営スクール」が令和3年に始まり、現在5期目を迎えている。その後、兵庫県・神戸市、恵那市等と各地のスタイルにあわせ、展開されている(畑中が校長、講師を務めている)。

豊田市の取り組みに対する反響から、その後各地でも「脱炭素スクール」と銘打った事業が展開されている。我々が関わるスクールで、特にポイントとしていることが、単なる脱炭素(排出量を計算し、削減手法を決める)ではなく、脱炭素をきっかけに“経営”にどう生かすのか、企業間のつながりを社会システムとして構築していく点である。

具体的には、スクールの中で、対外・社会的ニーズへの対応(コストダウンも含めた競争力強化やSBTの認定取得等対外的PRなど)や社内体制づくりへの活用はどう活かすのか(労働環境の改善、新規採用等人材確保など)もテーマにアクションプランを組み立てていく。このスクールも、座学と演習(グループワーク)の組み合わせだが、業種、立場(経営者や若手職員の方)を超えた意見交換で、地域での仲間づくりにつながっている。

【参考】

豊田市 <https://www.city.toyota.aichi.jp/jigyousha/other/1044961.html>

恵那市 https://www.city.ena.lg.jp/ena_diary/reiwa7nen/reiwa7nen12gatu/19543.html



豊田市脱炭素スクールの様子



恵那市脱炭素スクールの様子

●学びあう対話の場

今回、ご紹介した2つの人材育成プログラムの他にも、SDGs、脱炭素、気候変動にかかわる自治体向け職員研修や、公共施設の木造・木質化推進にかかる職員研修などにも取り組んできた。今年度は、広葉樹循環の目利き人材育成のプログラムを開発中である。テーマは変われど、地域で「新しいチャレンジ」に取り組む担い手の育成が主眼である。

その際、共通することは、正解が一つでない時代・世界に、「そのテーマだけでなく他の課題も組み合わせ、包摂的に取り組むこと」、「参加者同士での学びあう場」をどうデザインするのか。地域が抱える課題は複雑であり、新たなチャレンジをしようと飛び込む地域の担い手は孤独である。育成プログラムを通じて、地域のコミュニティを育むきっかけになればと思う。

(なかがわ きみこ)

一次情報収集、合意形成の スキルアップ

原 啓介

昨年度は、例年より交通関係の業務に関わるが多かった。また、インバウンドの増加に伴い、福岡市等で3つのオーバーツーリズム対策事業に関わった。これらの業務の一部で実施した外国人へのアンケート調査とワークショップについてご紹介したい。

●外国人アンケート調査

外国人へのアンケート調査については、福岡市、熊本県北部地域、大分市、八女市等で計6本の調査を実施した。多言語が堪能な留学生やアンケート調査に慣れたプロ調査員等のチームを組織し、調査場所やメインターゲットとなる国籍によって、その都度メンバーを構成して調査にあっている。

また、街頭で調査員が外国人に直接声をかけて収集する「直接聞き取りアンケート調査」に加え、観光案内所や宿泊施設等にポップやシールを配置し、

プリントされたQRコードを介してスマホ・オンラインで回答してもらう「WEBアンケート調査」を組み合わせることが多い。

WEBアンケートは、英語、韓国語、繁体字、簡体字の4カ国で作成しており、回答のインセンティブとして、回答後にクーポンを配信する。

日本人を対象としたアンケート調査に比べて手間はかかるが、ニーズは高いため、今後もノウハウの習得に努めたい。

●オーバーツーリズムに関するワークショップ

今年度実施したワークショップのテーマは「五島列島の3市町における観光商品開発」、「熊本県北地域における学生や高齢者の公共交通対策」、「福岡市天神地域におけるオーバーツーリズム」といった内容で、各地域で計5回開催した。

いずれも、大まかには地域の資源や課題を洗い出し、解決策や役割分担を皆で考えるといった内容だが、その中で「オーバーツーリズム」に関するワークショップを少しご紹介したい。

オーバーツーリズムに関するワークショップは、天神地域を巡回する「グッドマナー観光推進員」の方々の参加のもとで実施した。

※グッドマナー観光推進員：天神地区において、

日本人・外国人に対するマナー啓発、ならびに主に外国人に対する観光案内に取り組んでいただいた方々

ワークショップでは、「天神地域のエリア別マップ」の作成、「地域の課題やインバウンド対応において改善が必要な点」などをテーマに意見交換した。

オーバーツーリズムに関する議論は我々にとって

八女市で使用したWEBアンケート調査のポップ

 1. ゴミ・ペットボトルの 放置・ポイ捨て	 2. 路上での喫煙・歩きタバコ	 3. スーツケースや荷物の 置き方
 4. 行列の割り込み、横入り	 5. 歩道での座り込み・ 通行の妨げ	 6. 多言語表記を改善した ほうが良い点
 7. 地図や案内が分かりにくい 地点 (多言語以外)	 8. コインロッカーの案内 要望が多い点	 9. その他

地域課題・改善が必要な点に関するシール凡例

初めてであり、社内で、2週間ほど議論しながら準備した。

オーバーツーリズムが日常的に発生している場所は、九州内では福岡市の他は長崎市の中心部、由布市の湯の坪街道など、そう多くはないと思われるが、今回の経験をまたどこかの地域で活かすことができればと思う。

●人間に残る仕事、なくなっていく仕事

ところで、AIに関連する技術革新は本当に目覚ましい。私は現在、3社のAIの有料版を場面で使い分けながら、ほぼ毎日利用しているが、各社のサービスの日々の進化には大変驚かされる。

事例調査、簡易な集計、要約といった作業はすでに随分自動化されている。楽になって助かると思

うことも多いが、今後も我々が介在する必要がない業務分野が徐々に広がるのではないかと、ある意味戦々恐々としているところもある。

しかし、AIがどんなに進化しようとも、地域の方々と業務の仕様を検討する仕事、人から一次情報を得る仕事、人が集まった場で合意形成する仕事、業務完了が近づいた時期に人を説得する仕事は我々に残るのではないかと考えている。

時代によって一次情報を得るためのヒアリング対象者や、合意形成のテーマは移り変わるだろうが、一次情報収集と合意形成の技術は、この仕事に関わり限り継続して研鑽していかなければならないと思う。
(はら けいすけ)

地産地消に拘る清酒・焼酎づくりの蔵

～大分県臼杵市 - (株)久家商店の取組～

山田 龍雄

●日本焼酎倶楽部（旧日本焼酎学会）5年振りの蔵巡り

2019年、長崎・壱岐の麦焼酎の蔵視察以来、コロナ禍の影響もあり、日本焼酎学会（注）の定番となっていた蔵巡りは行っていませんでした。学会設立の呼びかけ人であり、中心的な役割を担っておられた豊田先生の会長退任に伴い、2024年に日本焼酎学会から日本焼酎倶楽部に名称を変更しました。

新たな体制となり、会員の皆さんから蔵巡り再開の要望もあり、5年ぶりに蔵巡りを行いました。

再開後の初蔵巡りの場所は、私の希望もあり、大分県臼杵市の(株)久家本店としました。

当社の益戸君（大分市出身）が、帰省した時に、持参してくれる「芋焼酎～熊八伝説」が美味しく、大分での芋焼酎造りというのも珍しいと思い、是非、この蔵を視察したいと思い、決めました。

●(株)久家本店とは

会社の沿革はHPに詳しく記されています(末尾参照)。久家本店は江戸後期より本格的に清酒を造り始めたという伝統ある蔵です。

現在の代表取締役の久家里三氏は16代目となります。当初は清酒づくりから手がけ、焼酎は麦焼酎「石仏」を昭和53(1978年)に製造・販売を開始しています。私が美味しいと感じた芋焼酎「熊八伝説」「甘太くん」の製造は意外と新しく平成19年(2007年)です。

令和3年度(2021年)には、使用する原料のすべてを安心安全な大分県産農産物(特に臼杵市産)とすることを達成されています。

酒米は大分県産の「若水」「銀の里」などを使用、麦は「トヨノホシ」、芋は臼杵市産高糖度甘藷「べにはるか～甘太くん」を使用しています。鹿児島産の焼酎のほとんどは「コガネセンガン」なので、食料用の芋を使うのは珍しいと思います。

パンフレットには「生産農家との緊密な連携、飲



久家本店全景 (HP より)



洗米をベルトコンベヤーで蒸器に投入



麹室～温度調整のための換気口



麹室～蒸米に麹菌を植えて麹を造る



蒸し米に水、麹、酵母を加え酒母造り

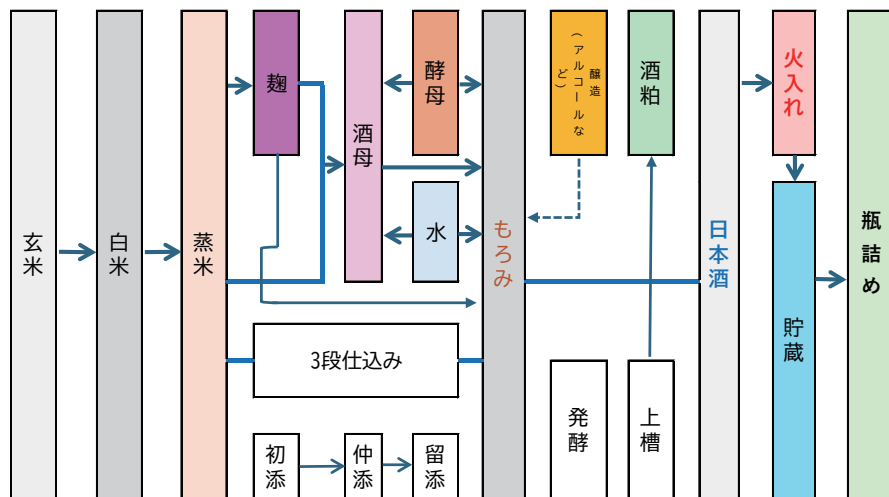


図1 清酒造りの一般的な流れ

食文化の醸成（地元と食のマリアージュ）、環境にやさしい行動（うすきエネルギーより地元の電力を購入等）の活動を通じて、ふるさとエンジン～地域循環型社会を推進する酒造場～をスローガンに社会に積極的に貢献して参ります。」と宣言されており、地域との連携、地産地消にこだわった志の高い

企業です。

久家本店では清酒は18種類、麦焼酎12種類、芋焼酎5種類と実に多くの品種の清酒、焼酎等を製造しています。

これらの清酒、焼酎等のほとんどが県内で販売、消費されているというから、まさに地産地消の蔵と



酒母にさらに蒸米、麴、水を加えて原酒となる（もろみ造りのタンク）



もろみを圧縮する機械、各層の残るものが酒粕



お湯に浸けての「火入れ」の様子



奥に見えるのが元酒造所を使った焼酎造りの蔵

いえます。

●工場長の丁寧な説明に感動

約束の13時半より10分ぐらい早く、久家本店に行くと製造責任者の村上勝弘氏が待っておられ、清酒の製造工程から説明してくれました。

年間のスケジュールを聞くと、1～4月が清酒、5月は昨年漬けた梅酒から梅の実を引き上げ真空パック製造、6月は梅酒・リキュール類、7～9月が麦焼酎、10～12月は芋焼酎と期間で製造の種類を変えています。

日本酒で約7万ℓ、梅酒類約3万ℓ、麦焼酎が2.7万ℓ、芋焼酎2万ℓ、全体で約15万ℓの生産量です。
 <清酒造り>

清酒造りの工程は一般的に図1のような流れになります。まずは麴づくりのための麴室に入れてもらい、2～3日かけて製造する麴づくりのデリケートな温度管理の工程を聞くことができました。印象に残っている言葉としては洗米時に水が米にしっかり

浸透していることが味を決める」とのことで、清酒づくりの繊細さを感じました。洗米や醸造りの工程にはろ過した水道水を使用しています。

清酒の酒母（もと）づくりでは、酒の味が荒くならないように、温度は10～11℃ぐらいに調整すること、この温度ではクエン酸の発生が弱く、雑菌の発生を抑えるため乳酸菌を加えるとのこと。一方、焼酎の一次仕込みでは17～18℃まで上げるので、クエン酸が多く発生するため、乳酸菌の投入は不要ということなどを学ぶことができました。

清酒では搾った生酒の酵母の働きを止めるために「火入れ」を行います。私は「火入れ」とはなんとなく熱を加えることだと漠然に思っていたのですが、約60℃以上のお湯につけることだということも初めて知りました。

<焼酎造り>

明治期に建てられたという元清酒工場の建物が、今は焼酎蔵となっています。



製麴機～蒸米と麴を攪拌する機械



2次仕込みのタンク



600 リットルの蒸留器、この蒸留器1基で多品種の焼酎を造っている。右下に見える円形の入口に入り、毎回、中を洗浄している



中の圧力をみる装置（ガラスのケース）

一番、驚いたのは中規模の蒸留器（600L）1台だけで、多くの種類の焼酎を造っていることでした。しかも焼酎の2次仕込みの醪（もろみ）が変わるたびに、小さな入口（約50cm）から人が入り、掃除をするということでした。

これには参加者全員、驚きと、その作業の大変さを感じた次第です。

私は全く勘違いしていたのですが、常圧焼酎は100℃、減圧焼酎は80℃ぐらいで蒸留とすと思いついていたのですが、常圧は80℃弱、減圧は40～50℃程度であり、久家本店の蒸留器は圧力調整ができる蒸留器でした。

視察が終わったのは15時過ぎで、その後、街なかにある久家本店のアンテナショップ「満寿屋（ますや）」で試飲し、清酒、焼酎を購入し、一路、本日の宿である別府の美松大江亭に向かいました。

夜は入浴、食事後、男性陣の部屋で日本焼酎俱

楽部メンバーの田辺氏が持参してくれた「甕仕込み森伊蔵」や満寿屋で購入した清酒、焼酎で夜なべ談義となりました。

注）日本焼酎学会とは

■設立

焼酎をこよなく愛する豊田健二先生（元福岡県立大学人間社会学部教授）が福岡県田川市で焼酎好きな仲間を募り、焼酎の文化を研究し、焼酎蔵を応援することを目的に2000年に発足

■活動

- ・2～3か月の1回程度、会員お薦めの焼酎を持ち寄り、品評会
- ・年1回の焼酎蔵巡り（2011年～）
- ・元豊田会長の焼酎に関する本の発行（薩摩焼酎紀行、南の国の焼酎文化等）



蔵見学後の意見交換

久家本店の沿革 (HP より)

- 寛永年中 (1624 ~ 1644) : 初代当主・久家仁右衛門が、大分県臼杵市横町に肥前より来住。
- 江戸時代後半 : 代々当主が稲葉藩の町年寄役を仰せつかる。酒造業を始める。
- 万延元年 (1860 年) : 源四郎が藩主・稲葉観通候より醸造蔵 (臼杵市江無田) を賜り、清酒「日の出鶴」を製造開始。創業。
- 明治 31 年 (1898 年) : 13 代常蔵が代表に就任
- 大正 8 年 (1919 年) : 代表銘柄を地名に因んで清酒「一の井手」に改名。業界にさきがけ (樽詰より) 瓶詰を導入
- 昭和 29 年 (1954 年) : 14 代・源次が代表社員に就任。第二工場が復活
- 昭和 53 年 (1978 年) : 麦焼酎「石仏」を発売
- 昭和 54 年 (1979 年) : 大吟醸「慶」を発売
- 平成 2 年 (1990 年) : 本醸造「一の井手・生酒」を発売
- 平成 11 年 (1999 年) : 15 代・容二郎が代表社員に就任
- 平成 13 年 (2001 年) : アンテナショップ「満寿屋 (ますや)」を開店
- 平成 14 年 (2002 年) : 大吟醸 / 吟醸「なごり雪」を発売
- 平成 16 年 (2004 年) : 16 代・里三が代表社員に就任
- 平成 17 年 (2005 年) : 10 月 1 日、「合名会社久家本店」から「株式会社久家本店」へと株式会社化
- 平成 19 年 (2007 年) : 臼杵市産高糖度甘藷「甘太くん」を使用した芋焼酎「常蔵」、臼杵市産のかぼすと梅を使用した梅酒「かぼすと梅酒のものがり」を発売
- 平成 20 年 (2008 年) : 臼杵市産酒造好適米「若水」を使用した特別純米「一の井手」を発売。平成 18・19・20 年と 3 年連続で全国新酒鑑評会金賞を受賞

- 平成 22 年 (2010 年) : どんぶり鉢に臼杵特産・カボスと氷を入れて、麦焼酎「常蔵」を注ぎ、柄杓ですくい合う飲み方「ウスキボウル」を考案・発表
- 平成 26 年 (2014 年) : 臼杵市産酒造好適米「若水」を使用した特別純米・無濾過生原酒「USUKI」を発売
- 平成 27 年 (2015 年) : 10 月 1 日、当社が中心となって陳情した臼杵市「乾杯条例」が施行
- 平成 29 年 (2017 年) : 大分県産焼酎専用麦「トヨノホシ」を使用した麦焼酎「常蔵 Breeze」を発売
- 令和 2 年 (2020 年) : 大分県産焼酎専用麦「トヨノホシ」を使用した麦焼酎「常蔵 Breeze 40 度」を発売。粕取焼酎 (原料 : 酒粕) を数回蒸留して製造したスピリッツ「TSUNEZO ALCOHOL 77%」を発売
- 令和 4 年 (2022 年) : 令和 3 年酒造年度 (令和 3 年 7 月 ~ 令和 4 年 6 月) に、使用する原料の全てを安心安全な大分県産 (特に臼杵市産) とする事を達成

(やまだ たつお)

天候リスクの高い地域における 観光サービス

酒見 知里

2025 年の年末 ~ 2026 年の年始にかけてオーロラ鑑賞のため、友人とスウェーデンを訪れた。すべての予約は個人手配で行ったため、旅行前は不安もあったがすべて問題なく予約は完了していた。しかし、旅の醍醐味とも言えるのかもしれないが、帰路で旅程通りにいかない問題が発生し、冷や汗をかく場面があった。天候リスクによる交通の不確実性を伴う観光地の在り方を考えさせられる経験をした。

●オーロラを見る確率を上げるために

太陽活動が 11 年周期で活発になる影響で、2025 年前後は光の強い大きなオーロラの出現率が高くなる。しかし、それでもオーロラを必ず見ることはできるわけではなく、オーロラを見るための条件として、①オーロラが発生しやすい場所・季節・時間、②雲のない晴天、③暗さが必要となる。



スウェーデンの移動の流れ

旅行の半年前から旅程を計画し、国選びでは、寒すぎず、オーロラを見る確率の高い場所を条件とした。オーロラ鑑賞で有名なカナダのイエローナイフは、マイナス40度以下になることもあり、スウェーデンはイエローナイフと比べて気温が下がりすぎず過ごしやすいため、スウェーデンに決めた。

今回、首都ストックホルムから飛行機や電車等乗り継いで1,300キロ北上した理由が、オーロラを鑑賞するために必要な条件を満たす場所へ移動するためである。経由地のキルナもオーロラは発生するが、アビスコは晴天率が高く、世界中のオーロラハンターが集まると名高い場所であるという記事を多く目にし、目的地をアビスコとした。

日本から行きづらい場所のため、日本人は少ないと予想していたが、予想に反して実際にアビスコを訪れた日本人のブログ記事は多く、旅程を決めるにあたって参考となった。その中で、キルナ駅とアビスコ駅(往路も含む)の区間で電車が運休の場合もあるという記事を見つけ、代替方法としては、タクシーやバスがあると書かれていた。代替があるのだから、何とか旅程通りに移動できるだろうと思い、関西国際空港を出発した。

初めての海外での年越しをストックホルムで過ごした後、予定通りにアビスコに到着し、2泊とも夜にオーロラを見ることができた。日や時間によって光の強さが違うが、写真の時は、「Dancing aurora!」と現地の人が大きく光の強い揺れ動くオーロラに興奮するほどであった。

●アビスコでの生活

ゲストハウスであるアビスコの宿の中で、オーロラの発生予想や発生時に知らせてくれるアプリの利用、ライブカメラで外の状況を把握した後、外に出て宿の裏庭や玄関前でオーロラ鑑賞を行った。日本よりも断熱性が高く、暑くなるほどの暖房機能が優れた暖房パネルのある部屋で友人と談笑、共同キッチンでパスタを茹でるなどの料理や食事をし、散歩や部屋寝をするなど、オーロラを室内で待つ日々は、日本の年越しとあまり変わらない過ごし方をしていた。

その宿では4組の日本人を見かけ、1人で宿泊をしていた男性とは、立ち話を交わした。人々の会話や外見から、宿泊者の中でヨーロッパ在住者が多く、アジア人の中では日本人が最も多い印象であった。スウェーデン南部からオーロラや雪のアクティビティを求めて訪れている国内旅行者もいた。皆旅慣れた雰囲気、自国から持参した食材や、近隣のスーパーや宿で購入した食品で料理をし、持参したスキー道具で宿の近くを滑るなど、自由に過ごしていた。

アビスコは北極圏に近く、日中でも太陽が出る時間がほとんどない極夜のため、昼間でも街灯が必要なほど薄暗い。日光を浴びて体内リズムをリセットする私にとって、短い期間ではあったが、太陽を浴びない日々は、体内時計が狂い始めている感覚があった。

●問題発生

人生で一度は見たいと思っていたオーロラを見ることができ、後は無事に帰るだけと思っていた矢先に、帰り道が閉ざされた。1月3日のキルナ駅行きの電車がすべて運休と表示されていた。ノルウェーの悪天候により、ノルウェー発の電車が到着せず、次の日の電車の運休もその時点で決まっており、次の日までに何としてもキルナ空港にたどり着かなければいけない私は、まず宿のスタッフに声をかけたが、「代替のバスはない」との返答で、移動手段としては、高額なタクシーしかないことが明らかとなった。

一度立ち話をした日本人の男性も同じように困っている状況だったため、声をかけ、タクシーに相乗りし、キルナまで移動することとなった。宿に日本語



宿の上空をオーロラが踊る



コーヒーとお菓子を楽しむスウェーデン文化「フィーカ」



昼の12時の薄暗い中、散歩途中に出会った凍った湖



すべての電車が運休と表示されている駅の案内板

が話せるスタッフがいたおかげで、運休便の乗車券や運休に伴う移動・宿泊費の請求を行う問い合わせフォームを教えてもらい、乗車券とキルナまでの移動に1台4万円ほどかかったタクシー代を帰国後に受け取ることができた。

当初予定していたキルナの宿に無事到着することができたのだが、宿のフロントで、同じ電車の運休により当日の宿なし、帰国の手段を失った日本人男性1人と出会った。私と友人の持ち得ている情報はすべて伝えたが、その後、 -15°C よりも気温が下がる夜のキルナで宿を見つけることができたのか、日本に無事帰ることができたのか、気にかかる。

●天候リスクが高い観光地について

スウェーデン旅行を経て、日本でも悪天候等による旅程変更リスクのある観光地では、以下のことが必要ではないかと感じた。

スウェーデンでは、電車の運休の可能性があることと代替手段は知っていたため、それほど焦らず対

処することができた。しかし、キルナの宿で出会った男性は、乗車する直前になって運休のことを知り、交通機関のリスク回避のための旅程の余裕を持たず、困った状況になっていた。天候により運休等のリスクがある旅行先の観光は、事前に天候リスクの対処方法を踏まえて旅程を考えておくことが求められる。また、受け入れる側が、旅行者に、リスクと対処方法について情報を発信することで、観光客の安心感に繋がる。

問題が発生しそうな旅行地においては、対処方法についてアドバイスできる人が交通拠点に常駐していると、客の満足度の向上、リピーターの獲得に繋がると思う。スウェーデンで利用した駅は無人駅で、尋ねる人がいなかったため、ホテルのスタッフに頼らざるを得なかった。また、日本語が話せるスタッフ以外は、質問には答えるが、手助けやアドバイスなどはなく、フロントサービス業務に忙しそうに従事していた。webで知りたいことは検索できる時代だ

が、最新の正しい情報かどうかは、観光客は判断がしづらい。観光客が困ったときに、適確なアドバイスや対応をしてくれるサービスがあると有難い。

今回は、アビスコとは別の場所の悪天候により、運休となったため、タクシーの待ち時間に宿の周辺を散歩することができたが、もし、現地で悪天候だった場合は、時間を潰せる楽しみ方はサウナやボードゲーム、携帯で動画を見るなどもあるが、室内でできる文化体験などがあると、楽しめる要素も多くなって、より良いだろう。

天候リスクが高い観光地は、観光客が旅行先を選ぶ時の心理的なハードルが高くなる。旅行先として選んでもらうためには、観光地としての魅力発信だけでなく、天候リスクに対する移手段や対応策を常に情報発信し、心理的なハードルを下げるのが重要であると今回の旅行を経て、より感じた。

(さけみ ちさと)

近況

不思議な縁～岸ママとの再会

2月28日(土曜)、私が所属している日本焼酎倶楽部の仲間6名で大分県臼杵市にある(株)久家本店を視察し、その夜は別府で宿泊しました。

翌日、朝食まで30分近く時間があつたので、別府湾から昇る美しい朝日を拝もうと旅館の前にある海岸沿いの公園を散策していると、20数年振りに偶然、別府亀川の浜田温泉の保存に奮闘された岸川多恵子さんにお会いしました。

私が、同じ海岸沿いの散歩道を歩いていなければ、あるいは1～2分でも遅れていたら、会うことがなかったのだろうと思うと、不思議な縁を感じました。また、最近、名前と顔が覚えられないのに「岸川さんですか?」と声をかけたのにも驚くばかりです。

岸川さんは竹瓦温泉前の木造アーケードの一角にお酒持ち込み自由のスナック「サロン岸」を経営されていたので、いつもは「岸ママ」の愛称で呼ばれていました。

私は、当時、(NPO法人)筑後川連携倶楽部の理事長であった駄田井先生(現:久留米大学名誉教

授)のお誘いで、別府に行った折に「サロン岸」に立ち寄り、岸ママから保存運動のこと、サロン岸が保存運動の事務所となっていること、全国の街並み保存のキーマンや都市計画の先生方のサロンとなっていることなどをお聞きしました。その後、我が社で開催していた「持ち寄りパーティ」に数回、来ていただいたように思います。

岸ママとの偶然の出会いの最後には、連絡先をお聞きし、その場は別れました。

●四ママ物語の発行

出会ってから2週間後、岸ママから分厚い郵便物が届きました。中には岸ママをはじめ4人の女性(ママ)が浜田温泉の保存・復元に奮闘した5年間の記録をまとめた「四ママ物語(A4版96頁)」と当時、新聞で取り上げられた記事のコピー等が入っていました。

「四ママ物語」を読むと、改めて、その熱意と復元運動のエネルギーが伝わってきます。

この物語の記録には、当時の保存運動に関わった人の寄稿文、保存署名や請願書の記録、新聞記事、議会の議事録などがおさめられています。

また、2021年に岸ママが全国の町づくりや保存運動に関わった女性に与えられる「峯山富美賞※」を受賞されたことも記載されていました。

浜田温泉の保存・復元運動の記録の主なものを次頁にまとめています。

保存・復元運動に共感する人からの6,500万円の寄付があつたとはいえ、4人のママ(岸川多恵子さん、高橋鶴子さん、水口民子さん、伊藤秀美さん)及び



製作・発行者

令和4年6月

岸川多恵子氏



浜田温泉資料館として復元された旧浜田温泉



旧浜田温泉の前面道路を挟んで向かい側に建てられた鉄筋コンクリートの新浜田温泉

ママたちを応援する人たちの輪が広がり、市民運動につながったことが復元へと行政を動かしたのだと思います。なお、高橋さんは令和3年12月、水口さんは同年9月に逝去されています。

今後、別府に行く際には偶然ではなく、事前に連絡し、改めてお話を伺いたいと思った次第です。

※浜田温泉保存運動の経緯

H12年	浜田温泉及び竹瓦温泉の老朽化調査を実施
H13年 4月	議会は浜田温泉の建替えに関する予算の計上 市は、和風のコンクリート造の建替えを行う予定
9月	4人の女性で「浜田温泉保存の会」発足 署名活動開始～1週間で5,800名の署名を集める
10月	県文化財保存協議会が木造建築の保存、修復の要望書提出
12月	市内の歴史的建造物の保全などを検討する調査委員会設置
H14年 4月	新しい市営浜田温泉完成 ※旧浜田温泉は閉鎖（解体予定）
H15年 2月	浜田温泉を温泉文化遺産として使って守る会が通算17,701名の署名提出
10月	市は現在地の保存修復は困難、年度内解体を表明

10月	別府八湯・亀川温泉のまちづくりグループ「亀カメ倶楽部」が文化財として保存するための署名活動開始
H15年 12月	旧浜田温泉の解体開始
H16年 3月	「浜田温泉館を使って守る会」「亀カメ倶楽部」が復元の要望書提出
4月	四ママの活動に共感する女性が亡き夫の遺産6500万円の寄付
H17年	市は使える木材の一部を再利用して浜田温泉を復元し、浜田温泉資料館として開業
H18年	同館を国の有形文化財に登録
R3年	全国街並みゼミで岸ママが「峯山富美賞」を受賞

※峯山富美賞

北海道・小樽運河周辺の歴史環境の保存活動を主導した主婦、峯山富美さん（1914～2010）の功績の顕彰にと、2016年に全国町並み保存連盟が創設。

これまでに東京の地域雑誌「谷中・根津・千駄木」を創刊した森まゆみさん、奈良駅などの保存に努めた黒田睦子さん、広島県の鞆の浦の景観保存活動を進めた松井秀子さんらが受賞している。

出典：四ママ物語より抜粋

（山田 龍雄）

続 続共生社会

前号で住民基本台帳の外国人登録人口を年齢階級別にみて、都市により流出入の年代が異なっていることを整理した。この違いが都市の特性によるのかどうかを、都道府県、政令市の在留資格別人数の動向で調べてみた。

まず、全国の動向を2015年から2025年の10年間でみてみた。家族滞在等を除く就労および就学目的の人は急増しており、2015年約67万人から、2025年約220万人へと増加、3倍以上となっている。日本の人口減少、労働力不足を補うことを目的とした、政策的な受け入れ拡大の影響を反映したものであると考えられる。

●専門的・技術的分野の伸び

とりわけ「技術・人文知識・国際業務」（図中の「経営・法律・技術」に含む）の伸びは顕著であり、2015年の約13万人から2025年には約46万人、3倍以上に増加した。また、高度専門職も2025年には約4.5万人となり、高度なスキルを有するホワイトカラー層の人材の受け入れが着実に進んでいる。

●新資格と技能実習の定着

2025年のデータによれば、2015年時点では存在しなかった「特定技能1号」が約34万人に達しており、大きな労働力となっている。

さらに、「技能実習」も45万人となり、特定の技能習得を目的とする外国人が、日本の労働市場で重要な地位を占めつつある。

●首都圏および大都市圏への高い集積

在留資格別人数の市区町村別データが公表されている2020年と5年後の2025年と比較してみた。東京都特別区における就労・就学人数は、2020年の約21万人から2025年には約32万人へ増加し、国内最大の集積地域となっている。大阪市も同期間に4.5万人から約9万人へと倍増しており、大都市部における在留外国人の増加ペースが極めて速いようである。

また、横浜市や名古屋市などの政令市では、高度専門職、技術・人文知識・国際業務といった専門・技術的資格の割合が高い傾向にある（図2）。都市の経済活動を支える人材としての存在感が高まっていると思われる。

●全国の約4割を占める政令市の存在感

2025年における全国の就労・就学人数約220万人（図1）に対し、政令市は約76万人（図2の総計）であり、全国の就労・就学の外国人の約4割が政令市に居住している。日本の外国人労働力および留学生の約4割が、20前後の特定都市圏に集中している。

在留資格別にみると、政令市は全国の「技術・人文知識・国際業務」の約50%、「留学」の約63%を占めている。ホワイトカラー職種や学生は、全国の過半数が政令市に集中しており、これらの資格者が都市部を志向、あるいは都市部にしか受け皿が存在しないという現状を表している。

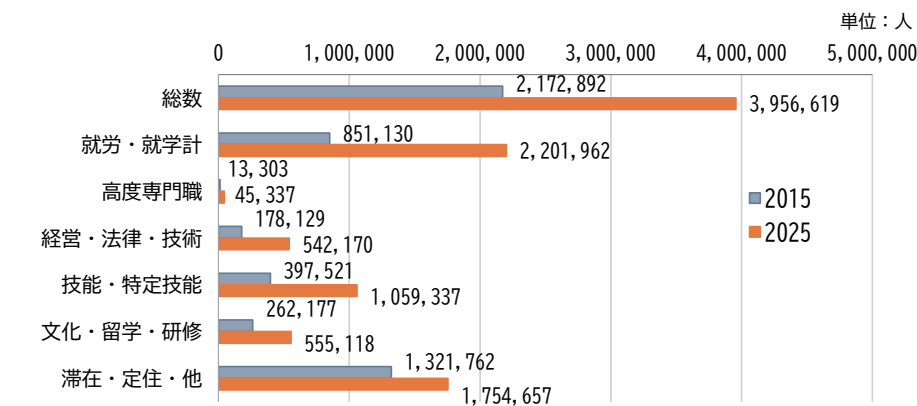


図1 在留資格分野別人数 2015/2025年

出典：在留外国人統計

注釈：図中の該当する在留資格
 高度専門職：教授、芸術、宗教、報道、高度専門職
 経営・法律・技術：経営・管理、法律・会計、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際、企業内転勤
 技能・特定技能：介護、興行、技能、特定技能、技能実習
 文化・留学・研修：文化活動、留学、研修、特定活動
 滞在・定住・他：家族滞在、永住者、定住者、配偶者、等

●大都市における圧倒的な占有率

都特別区や大阪市では、都府全体の在留外国人の過半数がここに集中する傾向がみられる。2025年の大阪府約16万人に対し、大阪市は約9万人を占めており、経済機能、教育機能が中心都市に集中している様子が反映されている。

●「留学」の都市集中

教育機関が集積する政令市では、「留学」資格者の占有率が高い。例えば福岡県では、県全体の留学人数約2.5万人に対し、福岡市だけで1.8万人、72%を占めている。これは、高等教育機関が地方ブロックの中核都市に立地していることにより、学生がその都市に集中する構造を示している。

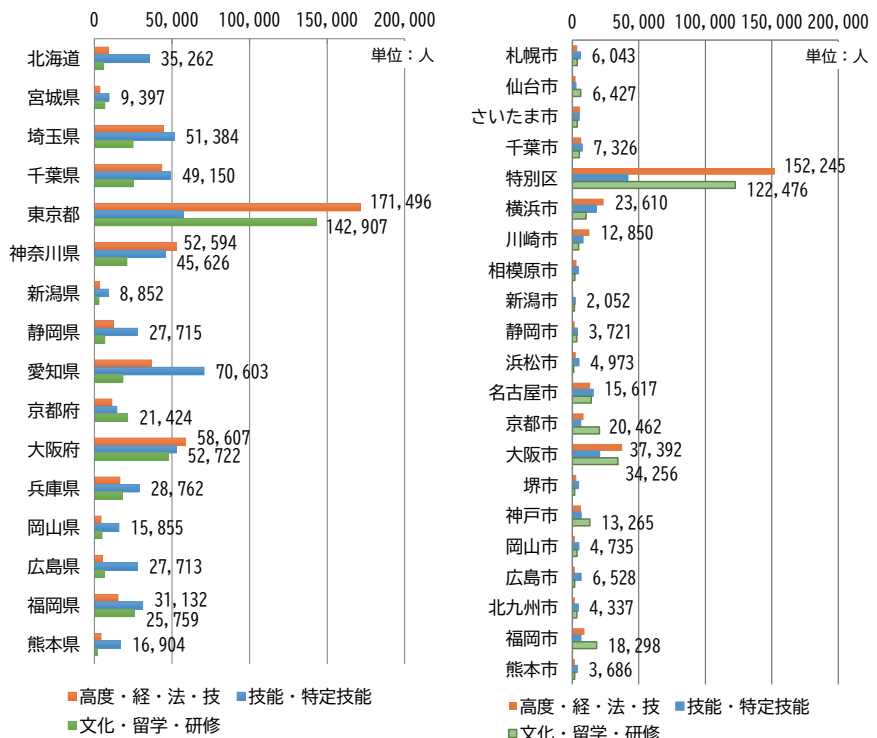
●地方都市における技能系の広がり

静岡市、浜松市など製造業が盛んな地域の政令市では、技能実習や特定技能の資格者（図2）が、数千人の規模で存在している。これらの地域では、都市ではあるものの現場を担う在留資格者は重要な役割を果たしており、その需要も大きいものと思われる。

●「技能・技能実習」の分散

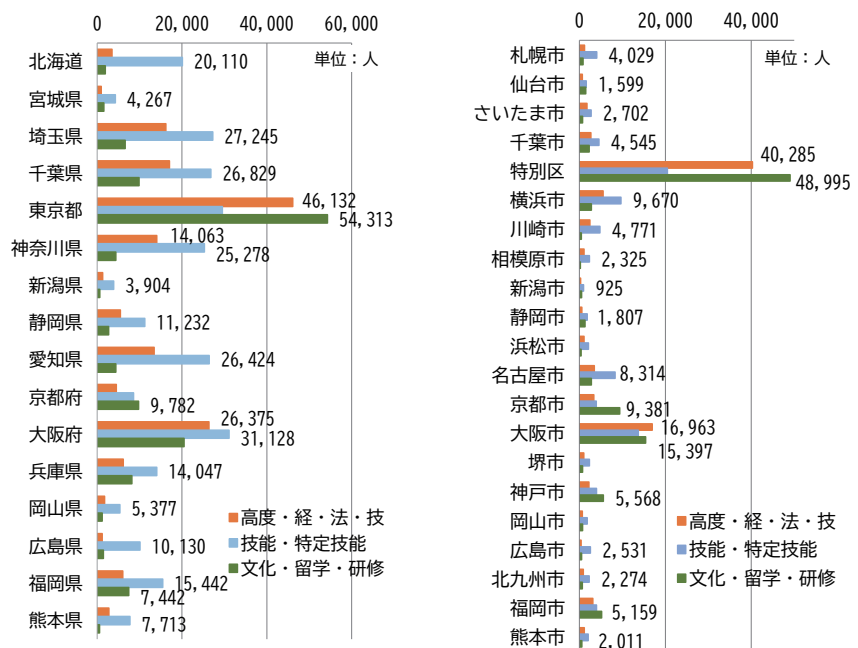
ただし、農業や製造業の現場に多い技能・技能実習は、都道府県全体に占める政令市の割合が低い傾向にある。静岡県では、県全体の技能・特定技能が約2.7万人に対し、静岡市では約4千人、13%にとどまっている。また、北海道では札幌市が17%であり、道県の増加数に対する政令市の増加数をみても、技

図2 在留資格分野別人数 2025年政令市のある都道府県、政令市



出典：在留外国人統計

図3 2020～2025年在留外国人分野別の増加数



出典：在留外国人統計

能や技能実習生が政令市以外の郡部や中小都市に広く分散して就労していることが分かる。

●現場労働型資格の低いシェア

「特定技能1号」の政令市シェアは約22%、「技能実習」は約17%にとどまっている。これらの資格

者は全国の政令市以外の地域、いわゆる地方部に約8割が居住しており、政令市が「高度人材・学生」の拠点である一方、地方部は「技能・労働力」の受け皿となっていることが分かる。全国の就労・就学目的の在留者は、急増してはいるが、政令市などの大都市と地方部は、その役割を分担しながら拡大しているとみられる。

●東アジア諸国における多角的な交流

この10年間で在留人数の最も増加したのはベトナム54万人、中国24万人、ネパール22万人と続く。訪日客の伸びと並行して就労目的の人々は増えており、特に留学から技術・人文知識・国際業務への移行など、就労による定住化が進むことも予想される。都市部に限らず、多様な外国の人々と共生する社会づくりが、益々重要な取組となると考えられる。

(山辺 眞一)

✎ 人生100年時代

日本人の平均寿命は、2022年の簡易生命表によると男性81.05歳、女性87.09歳、また、日常生活に制限のない期間の平均を示す健康寿命は、2022年国民生活基礎調査推計によると男性72.57歳、女性75.45歳らしい。人生100年時代と言われるようになって久しいが、実際のところ、100歳まで生きるには、男性では約20年、女性では約13年、「健康」という制約がつくと、男性は約28年、女性は約25年と、まだまだ開きがある。そう考えると、100年をとにかく生きる・生きることができたというのは、凄いことなのだなど気づかされる。

ちなみに、厚生労働省が2025年9月に発表した集計結果によると、国内の100歳以上の高齢者は9万9,763人である。そのうち約9割が女性で、男性は1割に過ぎない。2026年4月時点において、日本の最高齢は1911年生まれの114歳、世界に目を向けると、イギリス在住の方で1909年生まれの116歳、歴代の世界最高記録はフランス人の方で122歳(1875年～1997年)とのことである。

再び日本に話を戻そう。100歳以上の人口は年々過去最高を記録しており、調査が始まった1963年はわずか153人であったのが、今は約10万人である。実は、そのうちの一人に、私の祖母がいた。祖母は

1925年1月生まれで満100歳。大正、昭和、平成、令和、そして戦前、戦中、戦後を生き抜いた人であった。過去形なのは、今年の3月に亡くなったからである。認知症もあって病院で療養をしていたのだが、コロナ禍もあり私が最後にあったのは6年以上も前になる。でも、「生きている」というだけでなんだか「ホッ」としたものだ。亡くなった今は、やはり寂しいものがある。最後に、もう一度会いたかったなどの想いは尽きないが、致し方ない。家族だけで、100歳のお祝いを出来たのが思い出となった。

さて、100歳ということで、いくつか驚いたことがあった。1つ目に内閣総理大臣から賞状をいただいたこと、2つ目に銀杯をいただいたこと、3つ目に県知事からも賞状をいただいたことである。これには、両親も驚いていた。時の総理大臣、県知事の名前でいただいた賞状は、銀杯とともにしっかりとお座敷に飾っている。私も頑張って長生きをしたいところだが、まずは人生80年を健康に生きたい。健康に生きるためには、規則正しい生活、栄養バランスのとれた食事、適度な運動と十分な睡眠ということなのだろうが、さて、まずはどこから手をつけるか。

健康に生きることはもちろんだが、楽しみをもって生きたいとも思う。そこで最近始めたのが英語の勉強である。子どもと妻が、アプリを使って英語の勉強を始めた。「海外旅行したいよね」「英語が話せると、いいよね」というのがきっかけである。毎日5～10分であるが、なんだか楽しそうに勉強しているのを見て私も始めた。昨今のアプリは、本当に上手く出来ている。課題をクリアするごとに経験値が溜まっていくのだが、妻の進捗状況が定期的に送られてきたり、ノーマスで課題をクリアしたり、毎日続けたりすると経験値が余計に溜まったりする。それがランキング形式で発表されるので、「よし、もっと頑張ろう」となり、連続学習記録を更新中である。相手方の思うつぼである。頑張っているとすれば、有料サービスに移行していないこと。そのため、1日の学習量が限定されている。これでもって劇的に英語が身に付くとは思わないものの、遠い過去に学習したことを思い出すにはちょうどよい。少しずつでも続けていこうと思う。



布の町日暮里

もともと、個人的には技術士の勉強も忘れずにしないといけない。先日、直ぐ上の先輩(原)が合格した。本当は、一足先に合格したいと思っていたのだが、その野望は果たせなかった。何だかんだ5年以上受験しているので、大概で合格したい。年々、難しさがアップしていると思うのは、私だけだろうか。

ここで話題転換。数年ぶりに東京を訪れた。高層ビル群が立ち並ぶ姿と、どこからともなく現れる人の多さ、そして、人も世界中から集まっている様子を見ると圧倒される。その中で、変わりゆく姿もあれば、変らないものもある。

当社の監査役である村上先生にご案内いただき、日暮里の間屋街と商店街を歩いた。前者は、間屋街としての特色を活かしながら、うまく時代に合うようにサービスを提供・生み出している。日暮里中央通りを中心に約90店舗の繊維関連のお店が軒を連ねている。織物やニットのほか、繊維製品やその関連、小物、皮革などを取り扱っている。毎月第2土曜日には、「日暮里繊維街ものづくり応援の日」として、セール、ワークショップ、新作発表等の色々なイベントが開催されている。ここは、生地をただ販売するだけでなく、作品の創り手を育てる環境(創業支援施設を兼ねた荒川区立日暮里地域活性化施設の整備)を整えることで、生地を通した人・モノ・お金が循環(品ぞろえ豊富な生地→生地を求めて国内国外から人が集まり購入→購入した人が生産・商品化・販売→生地購入…)するようになっている。地域の特色を活かしたまちづくりの一つの形である。

一方、商店街の方は、以前は生活者の商店街と



荒川区立日暮里地域活性化施設「ふらっとにっぽり」

Baby lock ミシンが使えるスタジオのほか、ファッション関連産業分野における起業・経営支援を行う施設が入居

して、お惣菜や野菜、日用品を売る店が並んでいたが、今は押し寄せる観光客に合わせたお店が並んでいた。これも一つのあり様だが、行きつく先は、どこも似たような観光地化された姿になってしまうと感じるのは私だけだろうか。一度観光地化してしまうと、もとの生活者の町に戻るのには難しいように思う。

さて、人生100年時代。100年の中で、まちも色々な変化がある。工業地帯が住宅地になるとか、住宅地が商業地になるとか。もう少し身近に言えば、空き家・空き地がある時、全く別のものになるとかである。そのような中であって、まちとして失ってはいけないもの、変えてはならないものがあるはずだ。銀座や品川や高輪を歩き回ったのだが、超高層の煌びやかなビル群がある一方で、その隙間や、一歩裏手(路地)に入ると、生活者の匂いが残る空間、音や声が残っている。東京の魅力はそういうところにあるように思う。先生に連れて行ってもらった銀座の大衆割烹は、超高層ビルに囲まれた隙間の小径を入ったところであって、そこには仕事帰りのサラリーマンや新入社員、旅行者、普通のおじさん、おばさんでごったがえしていた。また、まちを歩いていると、公園・緑地があって、そこで遊ぶ幼稚園か保育園の園児の姿と声が聞こえてきた。「こんな都会のどこに幼稚園・保育園があるんだろう」と思うが、確かにある。

これまでも何度か書いたような気がするが、その街の個性や魅力は、脈々と受け継がれている人々の想いや考え、あるいは、その土地が持つ歴史や文化

に根っこがあると思っている。そういう思いを抱きながら、これからもまちづくりに関わっていききたい。

(山崎 裕行)

経 FaW TOKYO(ファッションワールド東京)に行ってみた

色々なことがあって、行き詰りを感じていた年度末に、当社監査役の村上先生にご紹介いただき、4月8日に「FaW TOKYO(ファッションワールド東京)」というファッションの展示会に行ってきました。年2回東京ビッグサイトで開催される日本最大のファッション展とのこと。

普段、ファッションとは縁がないというか、気にもしない人間なので、行ってみると何か刺激を受けたり、変化が起こったりするかもしれないと思って参加してみた。

この展示会は BtoB の催しであり、ファッションに関する川上から川下までの事業者が出店していたので、サプライチェーンを言葉ではなく、実物でみた印象を持った。展示されている商品自体は、奇抜・斬新なデザインというよりも、よく受け入れられるようなデザイン、ほんの少し先に行くデザインであり、それらの商品を企画する、製造する事業者が出店していたように思う。中国の事業者が多くを占めており、彼らの技術力を PR する場のようにも感じた。

色々な事業者等がブースを出していたが、その中で、気象予測を扱う団体がブースを出していたのが驚きであった。少しお話をうかがうと、長期的な気象予測を提供することで、その年の商品の生産計画・在庫管理に活かしてもらおうとのこと。確かに、暑さや寒さ、多雨や少雨は、ファッションに影響する。その他にも、AI を活用した事業者もブースを出していたが、こちらは、商品紹介に係るモデルの手配の代替機能や、製造過程の効率化というような内容であった。

3 時間ほど会場を見て回ったが、普段、データを扱ったり、AI と向き合ったり、民間事業者とお付き合いをしたりしているが、どの分野のどのような内容の目利きができるかが大切であり、それはセンスと言えるなど。例えば、業務においてビッグデータを取り扱うことがあるが、一言でビッグデータと言って

も、データの取得方法や中身によってわかることが異なる。データの癖を知った上で目的に応じて適切なデータを取り扱うことが求められる。当たり前のことかもしれないが、このような展示会は目利きたちの集まりで、同じようなものを取り扱う事業者の中から、如何に自社にとって適切なパートナーを見つけられるか。事業者のやり取りの様子をみて目利きたちのやり取りの場なのだなと思った。

(山崎 裕行)

表紙解説

今回、博多駅への通勤に着目し、8時半台まで(9時始業を想定し、徒歩10分以内で、始業の10分前までに出勤できる時刻として設定)に到着できる駅の範囲を可視化しました。

可視化にあたって、到達の可否は交通新聞社が発行している九州時刻表(2026春号)を主に参照し、掲載のない路線については、鉄道各社のHP等を参照しながら、特急や新幹線も活用することとし、判定を行っています。また、表紙の地図中や表1に掲載の出発時刻は、8時半台に到着可能な最も遅い時刻を記載しているため、路線によっては始発ではない時刻となっています。

表紙にも記載しましたが、福岡県内で唯一、到着できないのがJR日田彦山線BRTの深倉駅でした。この駅は、日田彦山線BRTのバス専用道路区間では唯一の新駅です。BRTが運行開始する前の、災害で運休になった鉄道の代替輸送バス時代のダイヤをみると、当時から彦山駅と筑前岩屋駅が、上下のそれぞれ始発駅となっており、おそらくそのダイヤを引き継いだため、両駅の間に位置する深倉駅だけが、最初の便が遅いため、このような結果になったものと考えられます。

一方、長崎県では、西九州新幹線の開通により長崎発の時間が30分ほど遅くなったほか、武雄温泉駅がリレーかもめの結節点となり、長崎～博多の特急路線に組み込まれたことで、その周辺の普通電車のみ停車する駅からの所要時間が短縮され、到着可能駅が増えているように思われます。

表1：主な到着可能駅別の所要時間・主な経路・定期代金

県	駅	路線	所在地	出発	到着	所要時間	主な経路	定期代金 (1か月)
福岡	彦山	日田彦山線 (BRT)	添田町	5:59	8:23	2:24	彦山→添田→田川後藤寺→新飯塚→博多	45,140円
	筑前岩屋	日田彦山線 (BRT)	東峰村	6:15	8:21	2:06	筑前岩屋→夜明→久留米→(新幹線)博多	84,020円
佐賀	伊万里	JR 筑肥線	伊万里市	5:38	8:32	2:54	伊万里→唐津→博多	61,500円
		松浦鉄道	伊万里市	5:50	7:55	2:05	伊万里→有田→(特急)博多	112,480円
長崎	島原船津	島原鉄道	島原市	5:44	8:36	2:52	島原船津→諫早→(特急)博多	204,380円
	佐々	松浦鉄道	佐々町	5:48	8:36	2:48	佐々→佐世保→武雄温泉→(特急)博多	133,810円
	長崎	JR 長崎本線	長崎市	6:58	8:36	1:38	長崎→(新幹線)武雄温泉→(特急)博多	158,660円
熊本	宮地	JR 豊肥本線	阿蘇市	5:59	8:21	2:22	宮地→熊本→(新幹線)博多	175,780円
	高森	南阿蘇鉄道	高森町	6:00	8:21	2:21	高森→立野→熊本→(新幹線)博多	183,080円
	三角	JR 三角線	宇城市	6:36	8:21	1:45	三角→熊本→(新幹線)博多	164,460円
大分	豊後竹田	JR 豊肥本線	竹田市	5:15	8:28	3:13	豊後竹田→大分→(特急)小倉→(新幹線)博多	236,940円
	由布院	JR 久大本線	由布市	5:37	8:28	2:51	由布院→大分→(特急)小倉→(新幹線)博多	226,990円
	日田	JR 久大本線	日田市	6:49	8:21	1:32	日田→久留米→(新幹線)博多	81,250円
	幸崎	JR 豊本線	大分市	6:09	8:28	2:19	幸崎→大分→(特急)小倉→(新幹線)博多	211,490円
鹿児島	山川	JR 指宿枕崎線	指宿市	5:26	8:21	2:55	山川→鹿児島中央→(新幹線)博多	342,090円
	国分	JR 日豊本線	霧島市	5:45	8:21	2:36	国分→鹿児島中央→(新幹線)博多	324,980円

また、長崎県内では、島原鉄道の各駅のうち、島原港駅だけが到着不可となっていますが、これは島原港発着のフェリーに合わせたダイヤとなっており、フェリーの始発以前の時間帯は、隣駅の島原船津駅が始発となっていることに起因します。

表1に、主な到着可能駅別の所要時間、主な経路、定期代金を示していますが、主な経路に着目すると、多くのケースで新幹線を利用することとなります。途中経由するターミナル駅などから出発する場合であれば、始発の特急に乗れば新幹線を利用することなく到着することも可能なケースも多い(例えば、大分駅であれば、5時56分発の特急ソニック4号に乗車することで8時36分に博多に到着可)ののですが、普通電車と特急電車の接続の関係で、途中で新幹線に乗り換えないと間に合わないというケースが多く見られました。

そのため、定期代金は、通常の代金に加え、特急利用のパスや新幹線利用のパスの代金がかかることから10万円を超え、鹿児島県の山川駅や国分駅は30万円以上となっています。小倉～博多駅の新幹線の通勤定期代が66,380円であることを考えると、金額的には彦山駅や筑前岩屋駅、JR 筑肥線を利用した場合の伊万里駅、日田駅あたりは同等+αですが、小倉～博多駅間の新幹線の所要時間が15～20分である点までを考慮すると、毎日の通勤という点では現実的ではないように思われます。一方で、テレワークなどと併用できるのであれば、月数回の出社で、可能性はあると思われます。

●自家用車を使ったらどうなるか？

表1に掲載した各駅について、自家用車を使った場合の所要時間や費用がどうなるかを整理したのが次頁の表2です。なお、所要時間はGoogle Mapの経路検索を使用し、前週の金曜日に、翌週の月曜日の朝8時40分までに博多駅に到着することを条件として算出しました。また、ガソリン代については、経路検索で算出された所要距離をもとに、ガソリン1リットルあたり15kmの燃費、1リットルあたり170円と仮定した場合の金額です。また、月換算は月20日の通勤としています。

結果をみると、すべての駅において数万円から、場合によっては10万円以上、自動車による移動のほうが安いという結果となりました。もちろん、この費用の中には、自動車の購入・維持費が入っていないため、単純比較はできませんが、例えば、ハイブリッド車やEV車であれば、燃費の部分で更に有利になり、コストも下がるため、費用だけ見ると自家用車の利用が有利であると考えられます。

一方で、所要時間はGoogle Mapが過去の実際の交通トレンドから算出したものですが、最も近い彦山駅からでも30分以上の幅、遠方になれば、1～2時間の幅が存在しています。通勤の場合、毎日のこととなるため、この不確定要素はリスクとなりますし、公共交通と比べると所要時間は、短めに見積もってもあまり変わりがないことを考えると、特に遠方においては自動車利用での通勤は現実的ではないように感じました。

表2：主な到着可能駅から博多駅まで自動車アクセスした場合の所要時間と必要金額

県	駅	路線	所在地	距離	所要時間	高速代	ガソリン代	月換算 (20日想定)
福岡	彦山	日田彦山線 (BRT)	添田町	62 km	1時間 15分～1時間 50分	910円	703円	32,260円
	筑前岩屋	日田彦山線 (BRT)	東峰村	70 km	1時間 05分～1時間 40分	1,970円	793円	55,260円
佐賀	伊万里	JR 筑肥線・松浦鉄道	伊万里市	77 km	1時間 15分～1時間 50分	1,000円	873円	37,460円
長崎	島原船津	島原鉄道	島原市	179 km	2時間 20分～3時間 20分	3,910円	2,029円	118,780円
	佐々	松浦鉄道	佐々町	109 km	1時間 50分～2時間 30分	1,000円	1,235円	44,700円
	長崎	JR 長崎本線	長崎市	153 km	1時間 50分～2時間 50分	4,340円	1,734円	121,480円
熊本	宮地	JR 豊肥本線	阿蘇市	141 km	1時間 50分～2時間 50分	3,260円	1,598円	97,160円
	高森	南阿蘇鉄道	高森町	141 km	1時間 50分～3時間 00分	3,260円	1,598円	97,160円
	三角	JR 三角線	宇城市	154 km	2時間 00分～3時間 00分	3,810円	1,745円	111,100円
大分	豊後竹田	JR 豊肥本線	竹田市	167 km	2時間 20分～3時間 10分	3,580円	1,893円	109,460円
	由布院	JR 久大本線	由布市	119 km	1時間 30分～2時間 30分	3,580円	1,349円	98,580円
	日田	JR 久大本線	日田市	73 km	1時間 00分～1時間 40分	2,350円	827円	63,540円
	幸崎	JR 日豊本線	大分市	181 km	2時間 10分～3時間 10分	4,650円	2,051円	134,020円
鹿児島	山川	JR 指宿枕崎線	指宿市	328 km	4時間 00分～5時間 10分	7,030円	3,717円	214,940円
	国分	JR 日豊本線	霧島市	252 km	2時間 50分～4時間 00分	6,090円	2,856円	178,920円

●公共交通で博多駅に通勤できる割合は？


最後に、到着可能な駅の徒歩圏内（駅から直線距離で800m圏内、なおBRTも同様に扱った/表紙地図中の濃紺の線の範囲内）に居住している人数を、国土数値情報で公開されている500mメッシュ別将来推計人口のデータを用いて算出しました。2020年の国勢調査から推計された2020年人口をみると、到着可能駅徒歩圏内の人口は約520万人となっています。同メッシュによる九州7県の人口は約1,280万人なので、約4割が（物理的には）通勤可能なエリアに住んでいることとなります。

しかしながら、前頁までみてきたように、公共交通で博多駅に8時半台に到着可能な駅の範囲は、現実的には、所要時間もさることながら、費用面から見て難しいのではないかと思います。

今回の北九州市のような取組は、他にも九州新幹線沿線のみやま市や西九州新幹線沿線の武雄市・嬉野市などでも実施されています。また、久留米市などでは新幹線のほか、在来線の利用でも補助を行っています。これらのような新幹線駅がある自治体、あるいはその近隣から、比較的近い都市への通勤であればこのような補助は有効であると思いましたが、九州一円となると、住居費や生活コストの安さなどを考慮しても、なかなか通勤は難しいのではと感じた次第でした。

（櫻井 恵介）

編集後記

 今年、福岡での桜の開花日は3月24日でしたが、かなり花が長持ちした気がしています。4月の初め、満開を過ぎてはいても、まだまだ綺麗な花が残っていました。

「満開の桜に迎えられ」という入学者の定型的な挨拶は形式的にも使えない状況が続いていると思っていましたが、入学式が早い大学や高校などを中心に「桜の花に迎えられ」くらいなら、今年は使えたのではないかと想像しています。

ちなみに福岡での桜の開花日は2021年以来、3月の12、17、18、27、25日となっています。開花には冬の気温が影響すると聞きますが、開花後の気象条件に左右されるという花もち期間も観測してもらえないかなあと考えています。（福）

よかネット No. 160 2026.5

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

mail: info@yokanet.com

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所（アルパック）

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030